

アイロンがけ

自分でアイロンがけしたワイシャツをピシッと着こなす男はカッコイイ。アイロンがけをマスターして、男をあげよう。ここではスチームアイロンを使ったプレス術を紹介。



男なら、**立体仕上げに**こだわりたい

アイロンがけの達人

山澤亮治 (やまさわ・りょうじ) さん
アパレルメーカーを陰で支えるアイロンプレスのプロ集団、ヤマサワプレス代表。



ワイシャツのアイロンがけ4か条

- (1) アイロンで折り目はつけない。
- (2) アイロンのスチームを活用する。 ※1
- (3) 目立たない部分から順番にかける。 ※2
- (4) 時間がなければ、襟と前立て、脇だけでもかける。

※1 霧吹きはシミやコゲのもとになりやすいため。霧吹きを使う場合は、全体に軽くむらなく霧吹きし、数分放置してシャツ全体がしっとりしてから、アイロンをかける。
※2 アイロンがけの途中でもシワができるため。いちばん目立つ襟は最後。

1 カフスと剣ボ口
丸みをもたせるため、カフスと剣ボ口は内側からかける。



2 袖

袖は筒状に仕上げるのが大切なので、折り目をつけてしまわないように注意。A・Bと置き方を変え、2回に分けてかける。タックの下はアイロンの先端を入れてかけ、タックの上は、アイロンを少し浮かせて、スチームだけをかける（アイロンでタックを押しつぶさない）。

A 縫い目が中央にくるように置いてかける。



B 縫い目が端にくるように置いてかける。



Point 折り目ラインがつかないように端はプレスしない

3 肩

アイロン台の丸みを利用して平らに広げてかける。



Point 脇は縫い目を広げてかける



Point へりは外側から一直線にかける



Point 台襟にかけるときは襟を台から落とす



4 脇と背

脇と背は生地の内側からかける。立体的に仕上げるため、縫い目を広げて脇のラインをしっかりとかける。背は2〜3回に分けてかける。背のタックは袖と同様、タックの下にアイロンの先端を入れてかけ、タックの上からスチームをあてる。

5 前身と前立て

ボタンが付いている右の前身からかける。前立てのボタンの間はアイロンの先端を使い、最後にへりを一直線にかける。続いて、ボタンが付いていない左の前身。前立ては一直線にしっかりとかける。
※慣れてきたら、前身は内側からかけてもOK。

6 台襟と襟

台襟と襟は分けて、それぞれ内側からかける。台襟は、襟にアイロンが当たらないよう台から襟を落としてかけ、襟は平らにおいて一気にかける。襟のふちにシワがよる場合は、外側から内側に向かってかけるようにする。

7 仕上げ

ハンガーにかけ、残ったシワにスチームを当てて仕上げる。

